「共創」「チャレンジを楽しむ」コンセプトを浸透させ、選手個々の成長を促し、WEリーグでの躍進を目指す

田代 久美子（たしろ くみこ）氏

AC長野パルセイロ・レディース 監督

愛知県生まれ。現役時代は浦和レッズレディースで活躍。現役引退後は栃木SCレディースコーチ・監督、山梨学院大学女子サッカー部監督を歴任。2022年 AC長野パルセイロ・レディースのヘッドコーチに就任し、7月から監督を務める。

昨年、日本女子プロサッカーリーグ（WEリーグ）が誕生し、今年10月下旬からいよいよ2年目のシーズンが開幕する。若い選手が多く、伸びしろのあるAC長野パルセイロ・レディースを率いるのは田代久美子新監督。「共創」「チャレンジを楽しむ」コンセプトをチームに浸透させ、選手個々の成長を促し、チーム力へと昇華させ、上位進出を狙う。

リーグ戦の前哨戦となった カップ戦グループステージでは5戦負けなし。得失点差で惜しくも決勝進出は逃したが、確かな手ごたえを得て、新シーズンへ挑む。

トップリーグで指揮を執る責任とやりがい

―― AC長野パルセイロ・レディースの監督に就任されました。抱負をお聞かせください。

田代 昨年の11月くらいにお話をいただいて、今年2月からヘッドコーチに就任し、7月に監督に就任させていただきました。日本初の女子プロサッカーリーグ（WEリーグ）が創設され、私自身もトップリーグで指導したいと思い始めていたので、WEリーグ2年目にして監督を任せていただくことに対し、クラブには非常に感謝しています。また、WEリーグ全11クラブの中で、女性監督は2名しかいませんので、そういったことも含めて大きな責任とやりがいを感じています。

攻守にアグレッシブなサッカーで6位以上を

―― 今季は何を目標に、どんなサッカーを目指しますか。

田代 1年目の昨年は6位を目指し結果7位に終わりましたので、今年も6位以上を目標にしています。目の前の試合に勝つために最善の準備をし、全力を尽くす。その1試合1試合の積み重ねの結果、最終的にひとつでも上の順位を目指します。

目標を達成するための大きな課題は**「得点力」**です。昨シーズン20試合で15得点しか奪えず、リーグ全体で11チーム中9位の得点数でした。今シーズンは、ゴール数を増やすことを重要視しています。

一方で昨シーズンは、前線からの積極的なプレスが機能して、相手チームのビルドアップを制限したり、前線でボールを奪ってゴールに繋げることができました。この点は強みだったと思います。また、他クラブと比較して若い選手が多く、伸びしろが大きい点も強みだと思います。

これらを踏まえ、今シーズンは**個の成長**を促す中で、**チャレンジを楽しむ**こと、**切り替えスピードにこだわる**ことで、**攻守にアグレッシブなサッカー**を目指します。キーワードは**「縦に速く」**です。時間をかけずに相手ゴールに迫り、シュートシーンを多く作り出したいです。守備においても、昨シーズン同様、前線から積極的にプレスをかけ、**得点を奪うための守備**を目指します。大事なことは、**90分間攻守においてハードワークする**ことです。ベンチメンバーも含め、全員でそれを体現し、勝利につなげていきたいと考えています。

「自分の価値を自分でつくる」選手になれ

―― 目指すサッカーを実現するために、田代監督は選手に何を求めますか。

田代 テーマは**「共創」**です。**自分たちでクラブや選手の価値を理解、共有し、強く魅力あるチームをつくる**ということです。そのために2つのポイントを伝えています。**「団結力」**と**「楽しむ」**ことです。サッカーはチームスポーツなので、**仲間を信頼し、高め合う関係性を構築する**ことが大切です。そのためにはオープンマインドでいなければなりません。また、**どんな時も失敗を恐れず果敢にチャレンジすること、物事をポジティブに捉える思考を持つこと**で、成長し、強く魅力あるチームに近づけると考えています。

一方、WEリーガーとして心得るべきこと、やるべきことを、私は**「自分の価値は自分でつくる」**という言葉で選手たちに伝えました。自分の価値を自分でつくるために欠かせないのが、人間力、向上心、自己観照の3つです。

人間力とは、ピッチ内外で示すべき**礼儀、挨拶、感謝**の思いです。**当たり前のことを当たり前にする**ことが、応援される選手になる基本です。

向上心は、まず**自分自身に矢印を向ける**ところから培われます。失敗やうまくいかなかったことを他人のせいにするのは簡単です。しかし、それは自分自身の成長を止めるということです。マイナスの結果に対し、一人ひとりが自分に矢印を向けることで、チームとして大きなプラスの力となり、チーム力向上に繋がると考えています。

自己観照とは、実業家・松下幸之助さんの言葉です。自分の心をいったん自分の身体から取り出し、主観を抑えて客観的に自分を観て、自分の強み、弱みが何かを知るということ。そして、**自身の強みに着目し、磨き上げ、自分の武器にすることが大切**だと思っています。もちろん、弱みを受け入れ、克服するために努力することも大切です。本当の意味で、自分の弱みを受け入れることは簡単なことではないですが、**自分の弱みを受け入れることが、本当の強さ**だと思っています。

自分を評価するのは他人だから何をするか

―― 自分の価値とチームの価値、2つの価値に触れられました。これらは同じものですか。

田代 個人の価値もチームの価値も、人から応援されることにあると思います。多くの人から応援されるのは、プロスポーツ選手としての醍醐味だと思います。ですので、一人の選手としても、チームとしても、その価値を上げていくことが大事です。

サッカーに限らずプロの世界では結果が全てです。**結果は数字で現れるので明確ですが、成果は数字で表されるものだけではなく、他人に評価されるもの**だと思っています。自分ではどんなに努力しているつもりでも、それが成果に結びつかなければ評価の対象にはなりません。成果を出すためのプロセスは人それぞれだと思いますが、**振り返りと調整を繰り返すことで成果に繋げ、結果へと繋げることが大切**だと考えています。また、その成果を出す過程で大切なのが**オープンマインド**です。**他人の評価や意見を受け入れ、自分のものにすることができるかが成長への大きなポイント**だと思います。だからこそ、時には厳しいことも言いながら、選手とのコミュニケーションを図り、選手自身が今やるべきことを明確にできるようサポートしています。特に、若い選手が多いチームなので、プラスの結果は自信に繋がります。彼女たちの可能性を最大限に引き出して、ピッチで魅力あるサッカーを見せることに努めます。

選手と地元企業とのコラボ企画ができたら

―― 地域の方々や長野商工会議所、会員企業にご要望などはございますか。

田代 地域の皆様には、日頃より多大なご支援ご声援をいただいています。改めて感謝申し上げます。

今後、企業をはじめ地域の皆様とクラブとのコラボレーション企画が実現できればと思っています。選手と共同開発したスタジアムメニューやグッズを売り出したり、名産品のりんごでAC長野パルセイロのマークや文字を入れたシールりんごをつくったりと、選手を上手に活用してもらって、地域の皆様との関わりが増えれば大変ありがたく思います。

入場者数を増やすため、チームや選手の魅力を発信していくことに力を入れていきますので、皆様ぜひスタジアムに足を運んでください。今後ともご支援ご声援よろしくお願いします。

田代 久美子さんの横顔

オフの時間は、家から一歩も出ずにずっとチームの映像編集をしています。時間があれば、録りためたドラマを見てサッカーを忘れる時間にしています。